



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.63

2021年1月1日発行

新春のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団
理事長 山内 卓

新年明けましておめでとうございます。

一昨年7月、理事長就任を拝命し二期目を迎えました。

日頃は三井ボランティアネットワーク事業団の活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



本事業団は、来るべき高齢化社会の到来に向けて、三井グループといたしまして、高齢者が積極的に社会活動に参加し活躍するための場を社会に提供するため、1996年に設立されました。

設立以来四半世紀を経過し、本年は節目となる25年目を迎えます。

シニアの生き甲斐づくり支援を目的として設立された本事業団は、三井グループの枠を超えた社会貢献活動へと発展・進化を遂げ、三井グループ運営会員各社（20社）のOB・OG会員に加え、一般の方々にもご参加いただき、現在のボランティア登録会員数は、約1,500名（2020年3月末現在）となりました。

具体的な活動分野は、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育、⑤スポーツなどの多岐な領域に及び、2019年度は年間延べ10,000名を超える会員の皆様にご参加いただき、活動関係先からも高い評価をいただきました。

しかしながら、昨年初春から蔓延した新型コロナウイルスの影響により、本年度は多くの活動が中止、または延期を余儀なくされました。

東京本部でも、河川敷・海岸などの清掃、恒例となったエリザベス・サンダース・ホームのチャリティーコンサートなどが中止、または延期となりました。

ただし、このような状況にありながら、主要な活動である留学生との一対一交流に関しては、関東では東大や横浜国大、駒沢大など、関西では神戸大などで、オンラインによる交流が始まり、コロナ禍で不安に陥っている

留学生のサポートを続け、多くの感謝の言葉をいただいています。

また、関西支部では、昨年6月より、感染防止に留意しながら、大阪の司馬遼太郎記念館、キッズプラザ大阪、京都の旧三井家下鴨別邸などでのボランティア活動を再開しました。

さらに、中国支部でも、感染防止策を講じながら、恒例となった広島平和記念公園での清掃活動などを再開しています。

新型コロナウイルスのため、社会や経済の円滑な活動が阻害され、本来の姿でボランティア活動を実施することが叶わぬ一年となりましたが、ご参加いただいた会員の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、本事業団の今後の課題といたしましては、①「with コロナ」を見据えた新しいボランティア活動のあり方の検討、②新規ボランティア登録会員の拡大、③運営会員会社の拡大の3点が挙げられます。

まず、「with コロナ」という新しい生活様式に合わせた新しいボランティア活動のあり方はどうあるべきかについて、会員会社の運営委員の方々と継続的に議論を深めてまいります。

次に、定年や雇用の延長に伴い、会員の方々の高齢化が進んでおり、新規会員の拡大が喫緊の課題となっています。会員会社のOB会等での告知を改めて徹底するとともに、定年を迎える前の現役世代に対して、キャリア研修等の機会を活用して、本事業団の認知度アップを図ってまいります。

最後に、運営会員会社の拡大につきましては、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社への新規加入、および休会会社への復会の勧誘に引き続き積極的に取り組んでまいります。

本事業団といたしましては、今後ともボランティア活動を通じて社会的な貢献に努めるとともに、三井グループとしてのCSR活動の一翼を積極的に担いつつ、三井ブランドの更なる価値向上を目指し努力してまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年一年の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



本部

交流は学びの場

一橋大都会 大島 道雄（三井住友海上出身）

交流相手の殷俊さんは中国江西省出身。現在一橋大学大学院博士課程在学中です。2020年3月彼の博士課程進学とともに交流期間が自動延長になり、私自身感謝した次第です。彼の進学祝いが終わった途端コロナ自粛が始まり、3か月ほどメールのやり取りでしたが、7月、8月はZOOMでの交流を行いました。しかしやはり会って話す方が楽しいということで9月からは以前の形式に戻しました。交流は月1回ですが、室内と戸外とで交互に行うように留意しています。

何人かの留学生と交流して感じたことですが、彼らは日本に居ながら日本人と日本語で日常生活の場で接する機会はほとんどないということです。このことは無理もないことかなと思います。ですから、私共の何でもないような会話や生活習慣が彼等にはとても新鮮に映ることがあるようです。このため、私たちの普段の生活に触れてもらえればと考えて、観光地ではない街中をできるだけ二人で歩くようにしています。

彼は完璧な日本語をしゃべります。このため二人とも言葉で苦労することはありません。また漢字を書けばお互いすぐに理解できるということはやはり素晴らしいことです。しかし注意も必要です。同じ漢字であらわす単語でも日中でかなりの意味が違うことがあります。会話がスムーズに進むからこそ、この微妙な違いが明らかになり、話していてもなるほどと感ずることもたびたびです。あるいは違った意味にとられたまま会話が進んでいるということもあります。また、私の日本語がわかりにくいというコメントも受けることがあります。結論をはっきりさせないような表現はやはりわかりにくくなるようです。

これらの機会は私自身の思い込みや表現、無意識の日常生活を見直す貴重な機会です。交流は私にとっては、楽しみとともに新たな学びの場です。

留学生家族との交流を終えて

横浜国大都会 伊藤 真一（日本航空OB）

私は三井V-Net横浜国大都会に4年前に入会しました。2年前から留学生家族との交流がスタート、今年はコロナ禍の中での交流を含め、この2年間の交流は私にとって今までに経験したことのない出来事が幾つかありました。

(1) アパート探しと食事会

この留学生との交流は2018年10月に始まりました。その年の12月半ば頃、留学生から突然アパート探しを頼まれました。

マレーシアにいる家族（ご主人と子供2人「4歳の男の子と6歳の女の子」）と翌年3月から日本で一緒に暮らしたいということでした。私は、日本語が話せない外国人には日本で不動産屋との交渉は難しいだろうと同情し、心よく引き受けました。私は、すぐに見つかるだろうと安易に考えていましたが、留学生の希望するアパートを見つけるのに年末まで要してしまいました。その後の不動産屋との契約書作成や電気・ガス・水道会社への手続きは私が代行をしました。

年明けの1月半ば過ぎに、留学生からアパートでの「食事会」に招かれました。10人程参集していたマレーシアの人達にわり、初めて口にするマレーシア家庭料理を食べながら談笑したことは良い思い出となっています。



2019年1月 留学生のアパートにて

(2) アマール君入園と城ヶ島旅行

私は3月初めに留学生から、来日したばかりの家族（ご主人と子供2人「4歳の男の子アマール君と6歳の女の子ソレハちゃん」）を紹介されました。数ヶ月後、留学生から市役所での入園申請のヘルプを頼まれました。程なくアマール君の入園する保育園が決まり、私は留学生の通訳として入園説明会に同席しました。

今年の年始に、行き付けのレストランで留学生家族とランチを食べていた時、留学生が私に言いました。「最

初の一年は、授業のスケジュールがタイトだったので、三井 V-Net が提供してくれたイベントになかなか参加できなかったけど、伊藤さんや三井 V-Net の皆さんと一緒にいった城ヶ島ツアーは、私たち家族にとって忘れられない旅行でした。そこで見た景色は、雄大で、そこから見える富士山はとても素晴らしかった」。実は、私も城ヶ島へは初めてで、その壮大な景色には感動させられました。



2019年10月 城ヶ島にて

(3) 会うは別れ

アパート退去の日（2020年9月19日）。私は朝早く引越しの状況を知るために留学生のアパートに行きました。前夜は夫妻とも一睡もしなかったようで、荷造りやごみの袋詰めにも追われていました。私もごみ出しを手伝い、昼前には引越し作業は終了しました。しばらくすると、留学生の友人が運転する迎えの車がアパートの前に到着しました。留学生家族は、私としばし別れの挨拶を交わした後、成田に向けて出発して行きました。

別れ際に私に言った留学生の言葉が今でも私の胸に深く響いています。

「最初から最後まで私たち家族を支援してくれて、本当に感謝しています。あなたは、私たち家族の父親のようでした。また必ず日本に来ます」。

東大柏部会 日本で初出産の留学生を支援

本部事務局

東大柏部会ではこのコロナ禍で大半の会員はリモート交流をしています。このような状況下、7月出産予定の留学生が中国に帰国できず、日本での出産を余儀なくされ、それを東大柏部会の会員の連係プレーで支援しましたので、その概要をご紹介します。

Kさんは中国出身の留学生で、夫と共に来日し東大柏で夫は博士課程に、Kさんは修士課程に在籍しています。

約1年半前から三井 V-Net 東大柏部会の鈴木さんと週1回の対一交流をしているなか、今年の7月に

出産することとなりました。初めての出産ということもあり中国に帰国する予定でしたが、折あしくコロナ騒動で帰国もできなくなり、慣れぬ日本での出産ということになりました。

ご両親も来日できず、わからないことばかりで、赤ちゃん用品なども何を準備すべきか全くわからず交流相手の鈴木さんに相談しました。鈴木さんから事務局に依頼、東大柏部会の中で不要になった赤ちゃん用品を募集することとなり、4月に部会の全会員に協力依頼のメールを発信しました。

早速女性会員の原澤さんが協力を申し出、日本でのお産や妊娠中に気を付けることなど何回かメールのやりとりをしながらアドバイス。またKさんの住まいが原澤さんの自宅から徒歩5分の近所と分かり、Kさん夫婦が原澤さん宅を訪問、直接色々と言葉を交わしながら食事をご一緒したこともあったそうです。

Kさんは原澤さんの娘さんと同じ年ということで、心細くなりがちな異国の地で初出産というなか、原澤さんの支援がどれだけ心強かったことかと思います。

7月23日、Kさんに無事女の子が生まれ、出産後も原澤さんは支援を続けています。

～～あの留学生は今～～

駒沢大学部会 横山 美代子（三井物産 OG）

2015年に駒沢大学に留学してきたフランス人ジェニファー・ヴィダルさんのことを書いてみたいと思います。



ジェニファーさんの名刺

彼女は来日当初から三井ボランティアの活動に積極的に参加して「江戸東京博物館着物体験会」や「茶道体験や浴衣会」の企画や準備を手伝ってくれました。

勉強の合間を縫って「歌舞伎」や「文楽」や神社のお祭りなど季節ごとに多くの伝統行事を楽しみ、1年の留学期間が終了した時には「帰りたくない絶対に再度来日する」と言い残してフランスに帰国しました。そして翌年には「ワーキングホリデービザ」を取得して再び東京に戻り、はやりの民泊で部屋を決めてすぐにフランス



人と人のまんなかに。

語講師の仕事を始めました。休日には御朱印帳片手に観光し、日本語の勉強も忘れず N2 の試験に合格し、働きながら日本での滞在を満喫しました。

こうして彼女と駆け抜けた 2 年間は、私にとっても「楽しく充実した忘れがたい大切な思い出」となりました。しかし、彼女とは「これでお別れ」というわけではなく「次は地方都市での暮らしを体験したい」と言って帰国後に「JET プログラム」に応募し、幸運にも高知県須崎市役所での仕事を心得て再再度の来日を果たしました。

市役所では「フランス料理レッスン」を企画し、広報で募集するとすぐに満席になる人気のクラスになりました。今はコロナ禍で休講を余儀なくされていますが、写真を見ると「グラタン」や「ガトー・マープレ」は、とてもおいしそうで、私も習いに行きたくなりました。彼女は翌年にはパリに出張して「JAPAN EXPO」という、現地の日本ファンのための大規模イベントで通訳としても活躍しました。

多くの応募者の中から選ばれた 2 名のフランス人女性が来日した際には、国の重要文化財に指定されている鳴無（おとなし）神社を案内し、昼食時には鰹をさばいて、燃え上がる炎で焼いて食べるという珍しい体験ツアーの案内を担当しました。このような体験型観光を通して街の魅力を世界に発信することもジェニファールの大切な仕事の一つになっています。須崎市は日本人でもその名前を知らない人が多い地方の小さな街ですが、海や山が近く、人情に溢れ、隠れた魅力がいっぱいです。

私も一度は訪れてみたいと思っていますが、皆様も「三井 V-Net 駒沢大学部会で交流をした留学生が活躍する」高知県須崎市へのご旅行を計画されてみてはいかがでしょうか？



お祭りに参加



2018-8-19高知新聞に掲載された
ヴィダル・ジェニファーさん

関西支部

神戸大学の留学生と「神戸市役所 24 階展望ロビーから旧居留地を歩こう会」開催

関西支部事務局

11月7日（土）午後、留学生 2 名と会員 3 名、事務局 1 名、神戸大学の先生 1 名の計 7 名で、「神戸市役所 24 階展望ロビーから神戸旧居留地を歩こう会」を開催しました。



東遊園地内のモニュメント

新型コロナ対策のため、留学生の募集定員を 5 名に減らし、マスクの着用、受付時に検温と消毒に協力していただきました。また、無線ガイドシステムを利用することにより、ソーシャルディスタンスの確保、説明時の飛沫防止を図りました。

1868 年（慶応 3 年）に外国人に対しての居住・営業が許可され、神戸港の開港と同時に設けられたのが、居留地で、その後、条約改正により廃止・返還され、旧居留地と呼ばれました。旧居留地には神戸の歴史を感じることでできるたくさんの史跡や石碑が点在しています。

まず、神戸市役所 24 階展望ロビー（地上 100m の高さ）から、タウンガイド KOBE24 ボランティアの皆さんに東・南・西・北各方面を俯瞰して案内していただきました。短時間で神戸の特色を理解できるので、留学生は真剣なまなざしで聞いていました。

東遊園地では「慰霊と復興のモニュメント」「1.17 希望の灯り」といった阪神・淡路大震災関連や外国人に関するモニュメントを見学しました。その後マップを片手に旧居留地辺りの史跡やレトロビルを散策し、三宮神社に立ち寄り、元町商店街から、南京町にて解散しました。

参加した留学生が神戸の文化や歴史に触れるきっかけとなるよう願っています。



集合写真

<コロナ禍でのボランティア活動について>

関西支部事務局

コロナ禍において、さまざまな工夫・アイデアを凝らして感染拡大を防止しつつ、ボランティア活動を再開された会員の皆さんの近況をお届けします。

【司馬遼太郎記念館】

緊急事態宣言が解除された直後の、6月2日（火）から開館し、企画展が順次公開されています。来館者がゆっくりとした時間を過ごされています。



感染予防の対応としては①館内消毒を定期的に実施。②マスク着用の入館。③アルコール消毒液を設置。④距離を保ってご見学——などについてお願いしています。

ボランティアは、午前・午後計6チームが「正門での来客者への案内」「入館券受け取り」「展示スペースでの監視」の役割を、3密を避けながら果たしています。

ボランティア仲間との再会は、長引く自粛生活でのストレスを解消でき、何事にも代えがたい効用があります。

【旧三井家下鴨別邸】

5月25日（月）より再開、ボランティアスタッフについては、6月20日（土）より活動を再開しました。



マスク着用のほか、お客様の触れる場所（椅子・ドアノブ等）を除菌しています。また、「京都市新型コロナあんしん追跡サービス」にも参加しています。

ボランティアの活動は、来館者の誘導・案内、喫茶コーナーの接客補助等の他、お庭の草取りや散水なども担い、来館者が安心して過ごせるよう心がけています。

来館者は、別邸YOGAや能楽講座等のイベントに参加されたり、美しいお庭を眺めたりしながら、かき氷、京菓子和抹茶等季節の移り変わりを楽しまれています。

【キッズプラザ大阪】

大阪府の休業要請の解除を受け、6月4日（木）より再開館、インタープリター（ボランティア）については、説明会を行った後、6月30日（火）より活動を再開しました。



感染症対策として①当面の間、一部展示物やワーク

ショップの利用を中止または制限。②来館者とインタープリターを含むスタッフのマスク着用・検温・アルコール消毒——などを徹底しています。「大阪コロナ追跡システム」への登録もお願いしています。

インタープリターは、子供たちに展示やプログラムの紹介、解説を行い興味や関心を引き出すスタッフですが、現在は来館者との距離を保ちながら活動し、子供たちが安心して楽しめるよう努めています。

【大阪府済生会中津病院】

緊急事態宣言は5月25日（月）に解除されましたが、活動休止を継続し、6月15日（月）より、一部の人と接することのない活動<図書整理作業、活動時間集計等事務支援、季節感あふれる折り紙手作り・園芸、館内美化清掃>を再開しました。



その後、情報ライブラリー（患者図書室）も開館時間を月・水・金 10時～13時に短縮して再開しています。

入院患者さんにとって食事に添えられる手作りの折り紙は、季節の移り変わりや院外の景色を感じる機会にもなっています。また、病院周辺の花壇が生き生きとして、「癒やされ笑顔になれる」と喜ばれています。

【穂谷里山保全活動】

大阪府枚方市の最東部に位置する穂谷里山地区にて、農業体験をしながら環境保全のボランティア活動に参加しています。



「にほんの里100選」にも選ばれたことのある美しい自然の中で自分の存在意義が確認でき、テレワークや自粛生活における不安やストレスへの解消法にもなっています。

◎10月25日（日）新型コロナ対応で、今年4回目の正式活動<タマネギの苗植え付け作業>を行いました。

最初に、長くなっているタマネギの根を植え付けやすいように短く揃えていきます。次に苗を植え付けるために用意された黒マルチの穴の開いたところへ、1本ずつ植え付けていきます。参加者6名で約1,300本植え付けました。来年春の収穫が楽しみです。





中国支部

この1年間をふりかえって

平田 一正（東芝デジタルソリューションズ）

活動に参加して7年が経過しました。平和記念式典の車いす介助活動に始まり、平和記念公園の清掃活動・広島交響楽団と障がい者とのコラボコンサート（マーガレットコンサート）での車いす介助・全国都道府県男子駅伝ボランティアの沿道整理や会員向けパソコン教室講師など活動を広げてきました。また、関連団体による様々なセミナーの案内もあり、学習の場として活用させてもらっています。気が付けば毎月2～3回の参加がすっかり生活の一部となっているように思います。また、普段の生活の中でも、視覚障がいと思われる人が横断歩道を渡ろうとする姿を見かけると「一緒に渡りましょう」と声をかけて、短い時間を共有することができるようになりました。



平田さん(右)表彰

2019年度末に三井 V-Net を通した社会貢献活動が勤務先で表彰を受け、勤務先にも三井 V-Net の活動をアピールできました。（三井 V-Net ホームページの活動レポートに掲載済）興味を持ち、活動に参加する人が増えてくれることを期待しています。

2020年は全国都道府県男子駅伝の沿道整理・マーガレットコンサートの車いす介助ボランティアへの参加でスタートしたものの、2月後半から約5か月間、活動休止の状態が続きました。個人的にも、仕事は在宅勤務に移行し、イベント中止で季節感も失われるなどで、気分が沈んでいる感じでした。7月頃から徐々に活動が再開され生活そのものが大きく変わったわけではなかったものの、前向きな気持ちになり生活にリズムを取り戻してきたように思えました。ボランティア活動を通じて社会に参加・貢献することが、自分の生活に大きく影響していることを実感しています。

「新しい生活様式」でボランティア活動も変化していくことが想定されますが、コミュニケーションと助け合いを感じられる活動を続けていきたいと思っています。



平和記念公園清掃（平田さん前列右端）

コロナ禍でのボランティア活動

中国支部事務局

2020年3月より中国支部ではボランティア活動を中止しておりましたが、緊急事態宣言解除ののち広島県ではコロナ感染者0名が続いたこと、県外移動が可能となったことにより7月よりパソコン教室、広島平和記念公園清掃



2020.9.20清掃活動風景

活動を再開しました。しかしながら、まだまだ活動が制限されております。毎年、参加していたフラワーフェスティバルは中止となり、平和記念式典は規模縮小のためボランティア募集はされませんでした。毎年11月3日の文化の日に広島市郷土資料館で行われる「駄菓子づくり広場」も多くの子供たちと対面でおこなうため感染予防対策ができないとの理由で中止となりました。

医療ボランティアではウイルスを持ち込まない、持ち出さないということで出入口を一カ所としている病院もあり、すべての病院でボランティア活動ができない状況です。

スポーツイベント支援ではオリンピック予選のアジアライアスロン選手権が2021年に延期、花キュービットウイメンズオープンテニス、天皇盃全国区都道府県男子駅伝など感染防止対策が困難との判断で中止となりました。これらの多くのイベントが新型コロナウイルスの影響でボランティア活動ができない状況です。

広島県はコロナの影響が少ない地域でもあり中国支部では7月よりボランティア活動を再開しました。パソコン教室では、参加人数の制限、マスクの着用、アルコール消毒、検温等々いくつもの制限をしながら行っています。全員が参加できないためご迷惑をかけている状況です。平和記念公園清掃活動では7月は21名の参加者があり例年と変わらない活動でした。検温の実施、ゴム手袋を各自で用意、活動の前後にはアルコールで消毒を行うをお願いしています。清掃活動開始前の集合写真も取りやめ



2020.9.20清掃活動開始前（距離を保って）



密になることを避けています。暑い中での活動では熱中症にならないよう密でないところではマスクを外しての活動をお願いしています。

まだまだ、コロナが収束したわけではなく、細心の注意をし皆さまのご協力を得ながら活動を継続していきたいと思っております。

事務局便り

<事務局長退任挨拶>



誉田 卓也 (東芝 OB)

このたび 2020 年 3 月 31 日をもって三井ボランティアネットワーク事業団を退団いたしました。就任以来 4 年間大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

三井 V-Net は設立以来 24 年が経過しておりますが、三井グループ全体のイメージ向上と活動のさらなる活性化に向けて、会員の皆様、事務局、運営会員会社で一層の連携を図り取り組んでまいりたいと存じます。いろいろ課題もございますが、今後とも引き続きご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様方のますますのご活躍、ご健勝を祈念しております。

<事務局長就任挨拶>



西本 宏永 (三井不動産)

誉田前事務局長の後任として、2020 年 4 月 1 日付にて事務局長に就任いたしました。

日頃は本事業団の活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本事業団は、設立以来 24 年を経過し、国際交流、環境保全、医療・福祉、文化・教育、およびスポーツなどの分野におけるボランティア活動を通じて、長らく社会貢献を行ってまいりました。

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により、残念ながら多くの活動が中止または延期となっておりますが、引き続き三井グループの枠を超えた活動の更なる活性化を図ってまいりたいと存じます。

会員の皆様、ならびに運営会員会社の皆様には、今

後ともご指導・ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2019 年度「三井 V-Net」名義によるダルニー奨学金への支援報告

事務局

三井 V-Net ではご登録いただいているボランティア会員の皆様のみならず、運営会員会社の社員や OB・OG の皆様のほか、三井 V-Net のホームページやニュースレターをご覧いただいた一般の皆様からも『書き損じによる未投函の日本郵便製はがき』や『未使用切手』のご提供を、年間を通じて本部 (東京)・関西支部 (大阪)・中国支部 (広島) の各事務局にて受け付けております。

ご提供品は年末ごとに取りまとめ、三井 V-Net 設立当初よりご協力いただいている公益財団法人 民際センターに引き渡し、そこで展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金※」に充てるために換金され、「三井 V-Net」の名義にて、東南アジアのタイ国にて経済的に恵まれない家庭の子どもたちに、中学校における基礎教育の機会を提供するための奨学金として活用いたしております。

現在、ひとりの一学年に必要なとされる奨学金の額は 14,400 円 (例: 額面 50 円のはがきは換金し 36 円となり、400 枚必要となります) となっており、2018 年 1 月より 12 月までの一年間にお寄せいただいた提供品の換金額も含めて、2019 年度は 4 名の学生を支援することができました。またその半数はすでに卒業までの 3 学年分の学費を確保できています。

現地の奨学生に代わりましてご協力いただきました皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。

引き続き多くの温かいご支援をお願いいたしたく、ご家族やご友人にもお声掛けいただければ幸いです。



2019 年度入学の新一年生 (卒業までの 3 年分の学費が確保されております。)

※ダルニー奨学金に参加することにより支援する子どもの報告書 (写真とプロフィール) が届き 「顔が見える、成長が見守れる、1対1の教育支援」として身近に実感することができます。子どもには支援者のお名前が送られます。

(公益財団法人民際センター ホームページより)

物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。
ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほかインド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。支援金のもととなる物品につきましては ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたい お知り合いにもぜひお声掛け願います。
ご協力を心よりお待ちしております。

ご提供 いただきたい 物品

- 日本郵政製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵政製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペードカード(未使用のみ)

※使用済みインクカートリッジは情勢の変化により収集を取り止めました。これまでのご協力に感謝申し上げます。



ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部
もしくは各支部あて
(本ページの下の住所、電話番号をご覧ください)

皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

参加いただけるボランティア活動

- ① 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)
- ② 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)
- ③ 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)
- ④ 福祉(福祉施設内の清掃・音楽会、福祉団体主催イベントでのお手伝い等)
- ⑤ 文化・教育(文化施設でのお手伝い等) ※関西・中国支部のみ
- ⑥ スポーツ支援(マラソン、ゴルフ会場での支援) ※関西支部のみ

入会ご希望の方は、三井V-Net ホームページ (<http://www.mv-net.com/>) より
ご登録をお願いいたします。

三井ボランティア

検索

三井ボランティアネットワーク事業団

本 部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035
関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681
中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 中川ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101